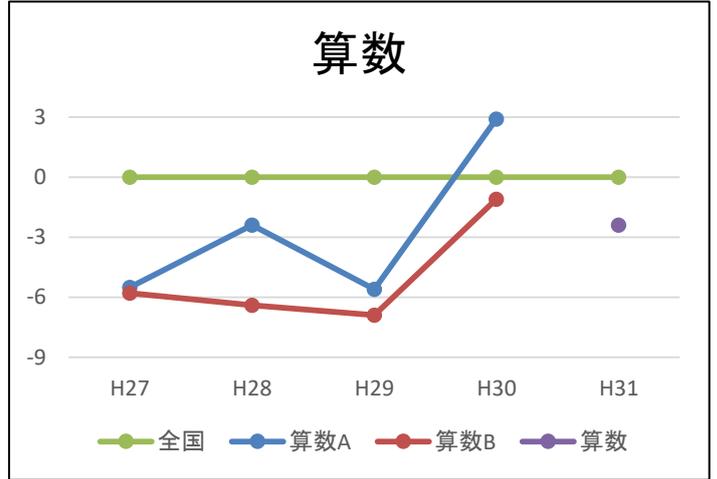
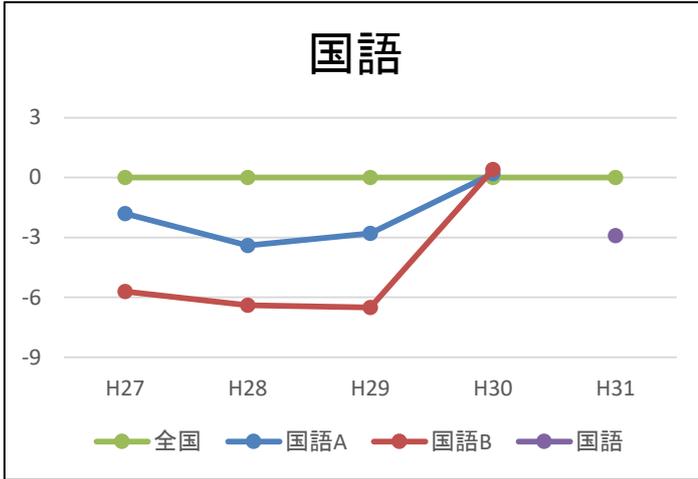
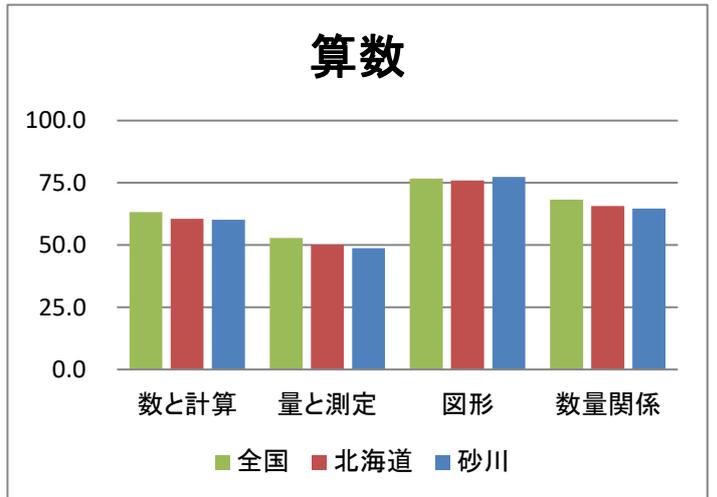
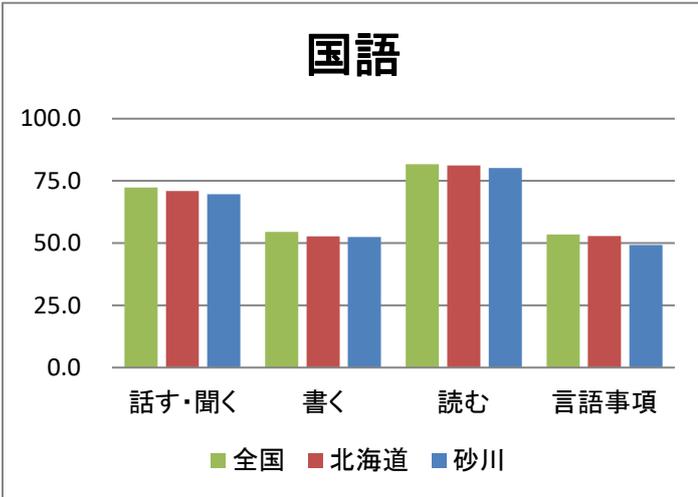


小学校（学校数：5校 児童数：113名）

1 平均正答率(全体)の経年推移

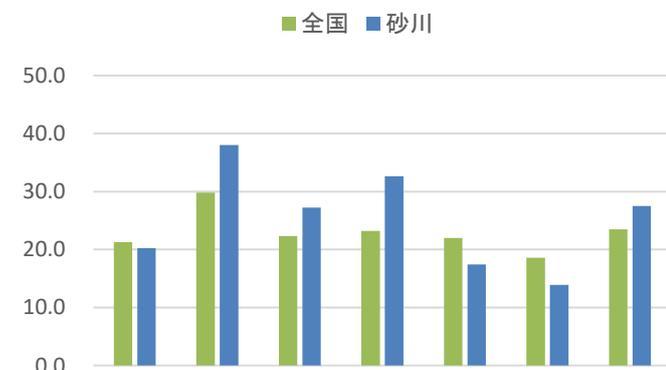


2 領域別平均正答率の状況



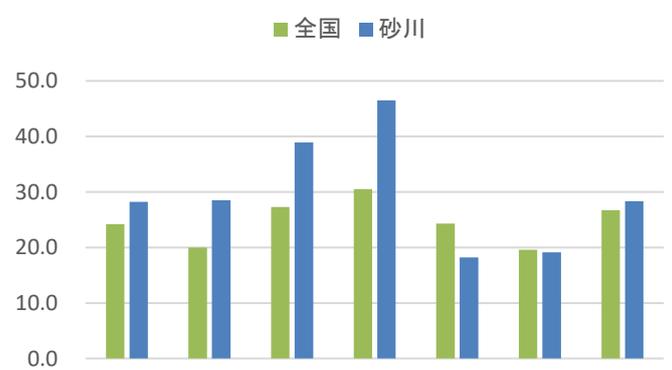
3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合(努力を要する児童の割合)

国語



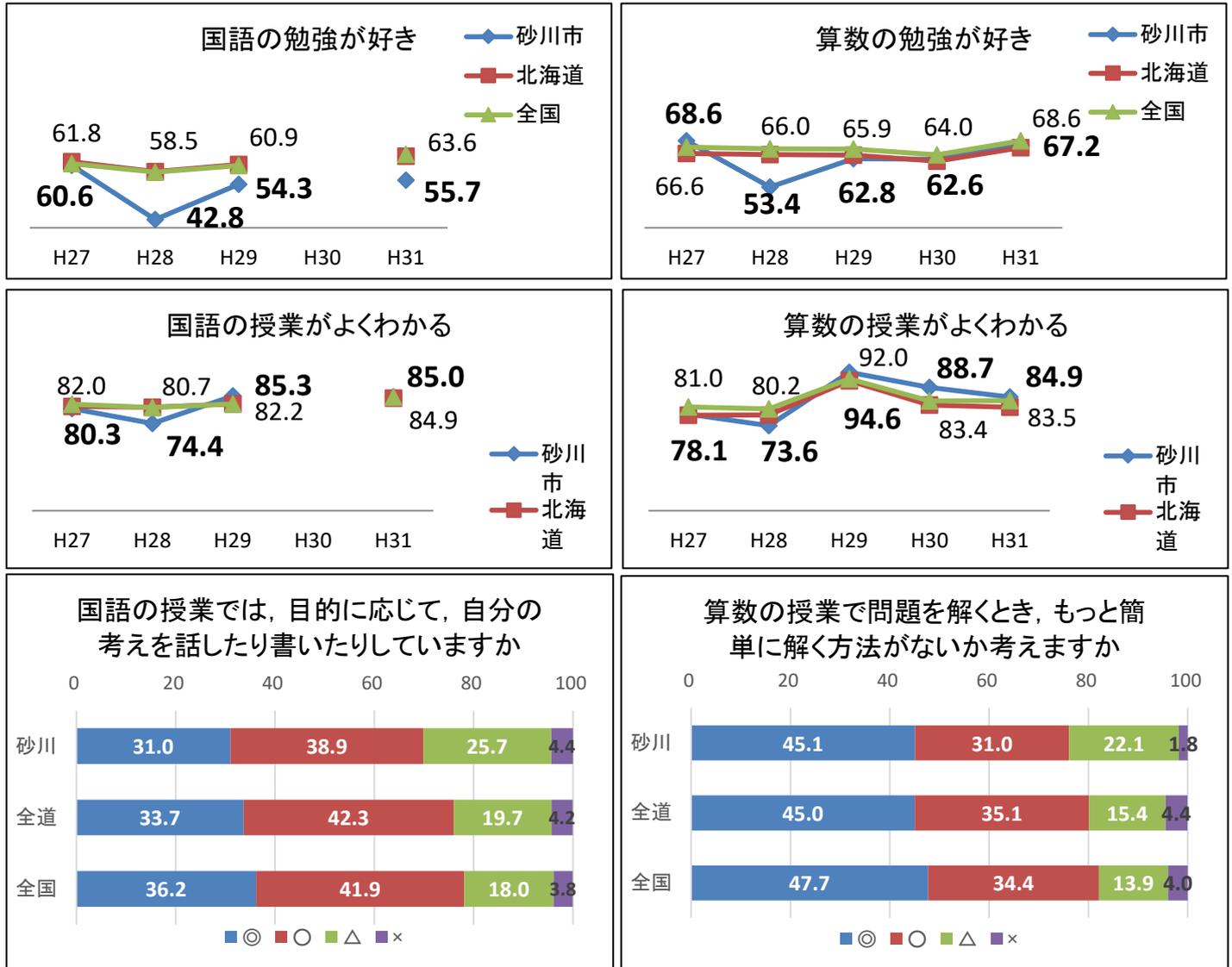
国語	H28		H29		H30		H31
	A	B	A	B	A	B	
全国	21.3	29.8	22.3	23.2	22.0	18.6	23.5
砂川	20.2	38.0	27.2	32.6	17.4	13.9	27.5
差	-1.1	8.2	4.9	9.4	-4.6	-4.7	4.0

算数



算数	H28		H29		H30		H31
	A	B	A	B	A	B	
全国	24.2	20.0	27.3	30.5	24.3	19.6	26.7
砂川	28.2	28.5	38.9	46.5	18.2	19.1	28.3
差	4.0	8.5	11.6	16.0	-6.1	-0.5	1.6

4 授業に関する意識(質問紙調査より)



5 分析

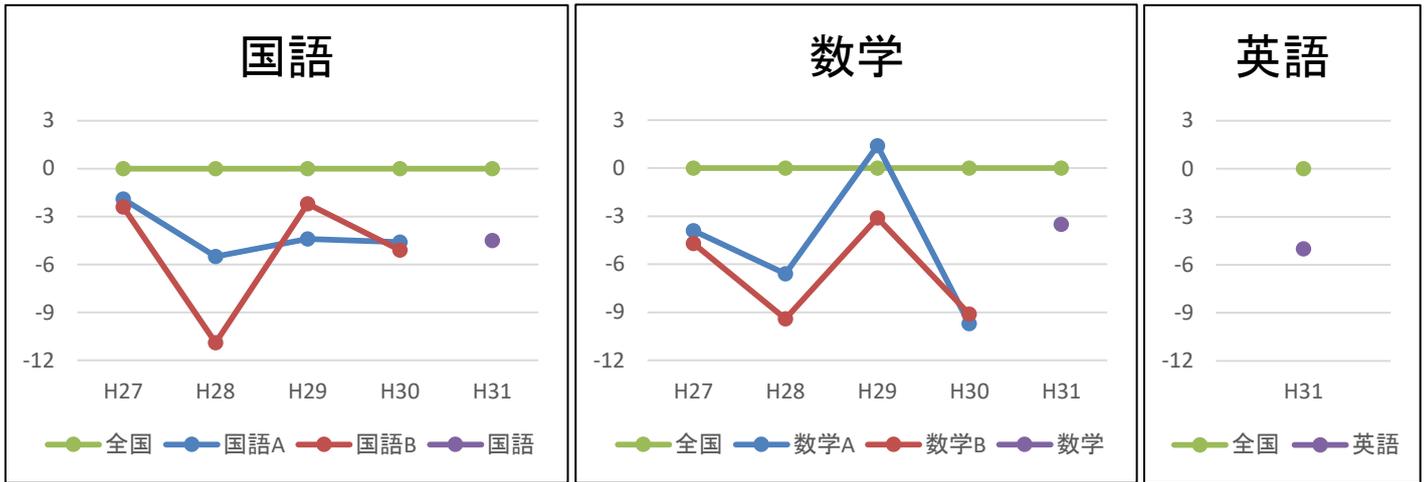
- 国語、算数ともに、全国平均をやや下回った。
- 領域別の傾向としては、全道や全国と同様であった。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合が、昨年度は全国より低かったが、今年度は全国より高かった。
- 「勉強が好き」との回答は増えているが、「よくわかる」との回答は、国語が同程度、算数は若干減少した。
- 国語の授業で、「自分の考えを話したり書いたりしている」との回答は約70%で、全国平均より約8%低い。
- 算数の授業で、「もっと簡単に解く方法がないか考える」との回答は約75%で、全国平均より約6%低い。

6 授業改善の視点

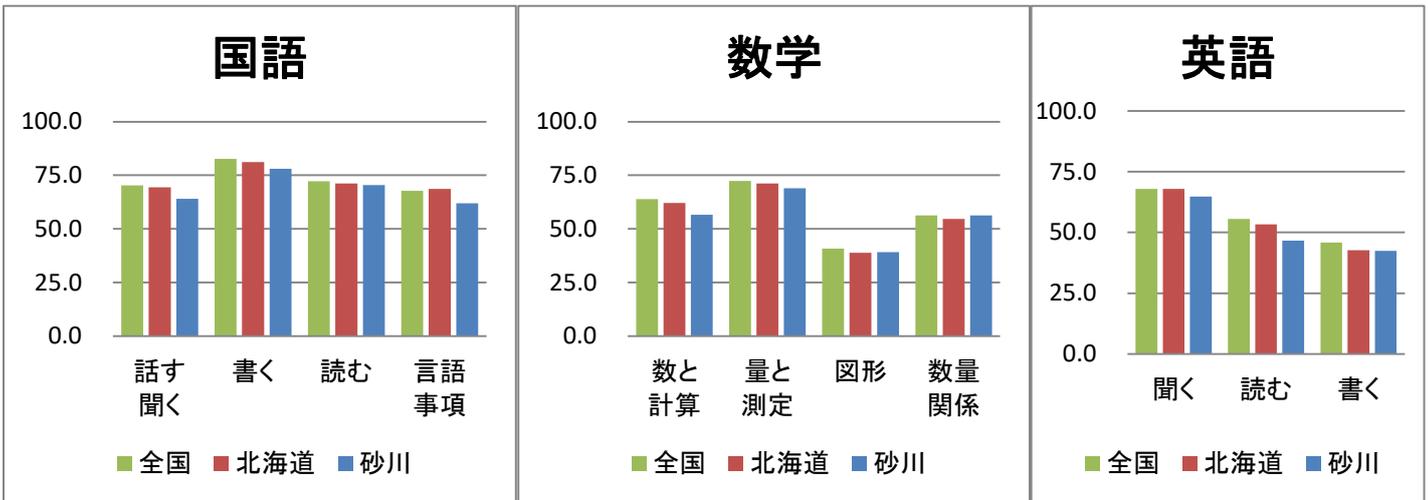
- 「課題」を明確に示して見通しを持たせるとともに、「振り返る」ことによって学習内容を確認し、わかる喜びとできる自信が心に残る授業の実践。
- 計画的に考える場面を設定し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践。
- 基礎・基本の確実な定着のため、効果的に復習するための家庭学習につながっていく授業の実践。

中学校（学校数：2校 生徒数：125名）

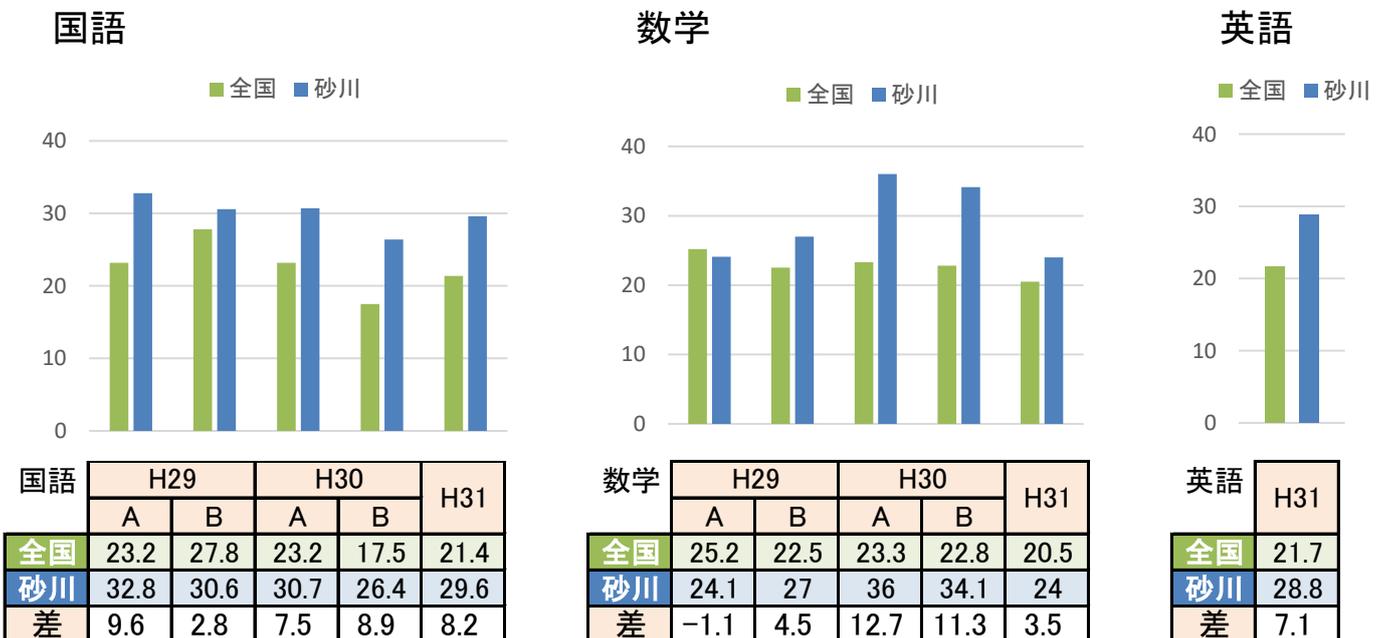
1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合(努力を要する生徒の割合)

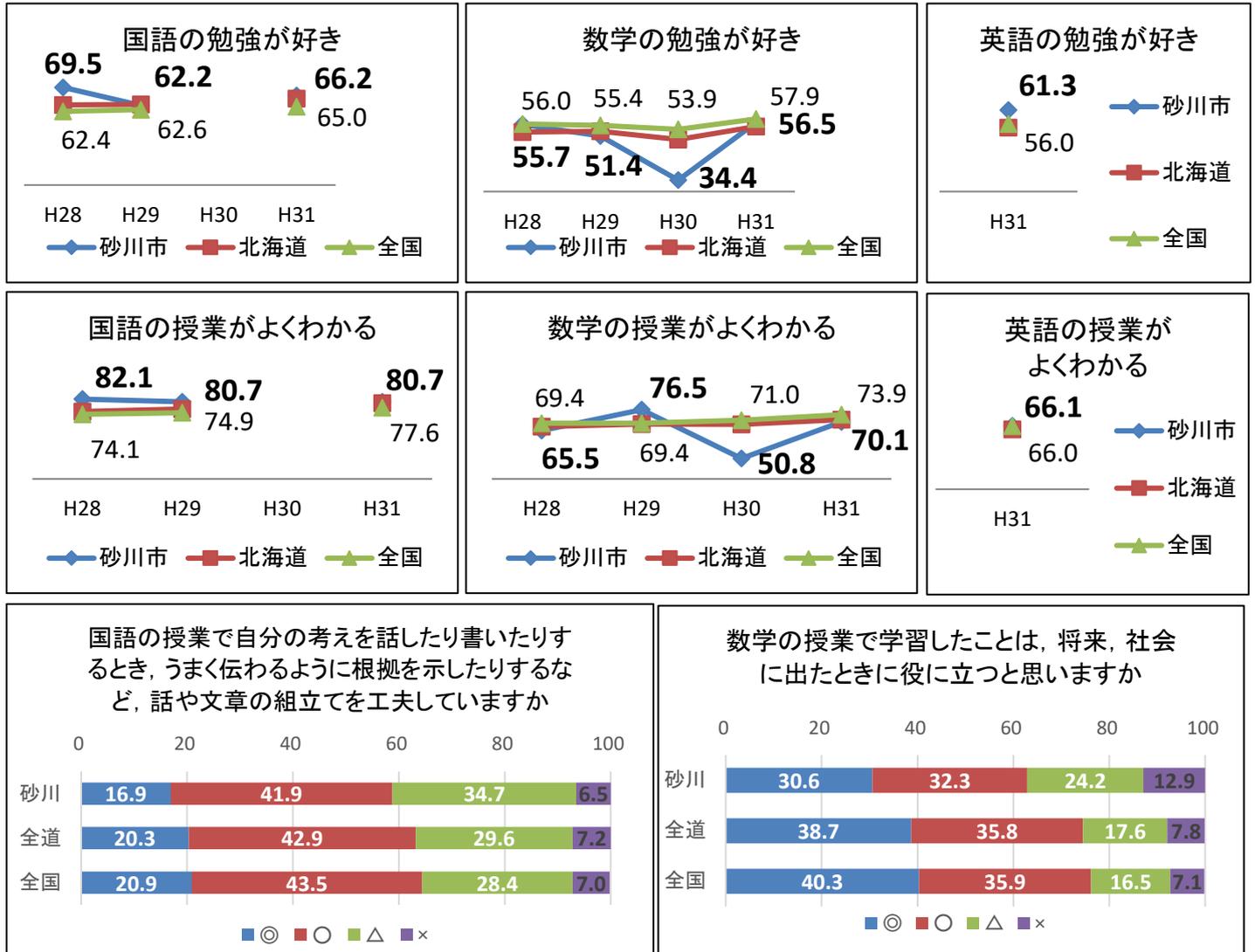


国語	H29		H30		H31
	A	B	A	B	
全国	23.2	27.8	23.2	17.5	21.4
砂川	32.8	30.6	30.7	26.4	29.6
差	9.6	2.8	7.5	8.9	8.2

数学	H29		H30		H31
	A	B	A	B	
全国	25.2	22.5	23.3	22.8	20.5
砂川	24.1	27	36	34.1	24
差	-1.1	4.5	12.7	11.3	3.5

英語	H31
全国	21.7
砂川	28.8
差	7.1

4 授業に関する意識(質問紙調査より)



5 分析

- 国語、数学、英語の全てで、全国平均をやや下回った。
- 領域別の傾向としては、全道や全国と同様であった。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合が、全国より依然として高い。
- 「勉強が好き」の回答は、国語、数学でともに増加し改善傾向にある。英語では全国を上回った。
- 「よくわかる」の回答は国語で高い状態を維持し、数学は増加し改善した。英語は全国とほぼ同程度だった。
- 国語の授業で、「根拠を示したり、工夫する」との回答は約59%で、全国平均より約6%低い。
- 数学の授業で、「社会に出たとき役に立つ」との回答は約63%で、全国平均より約13%低い。

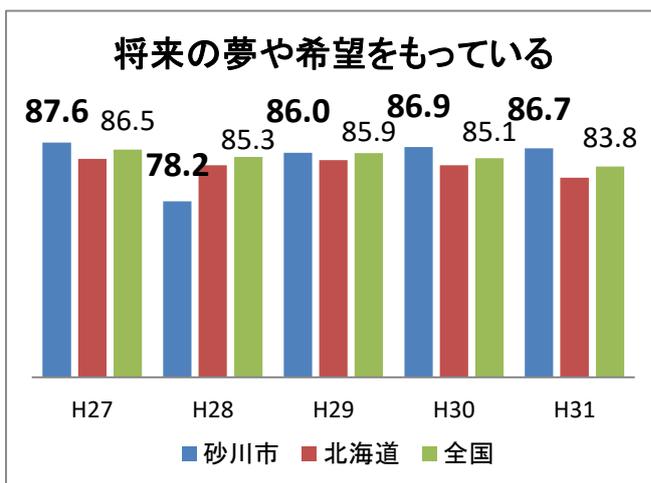
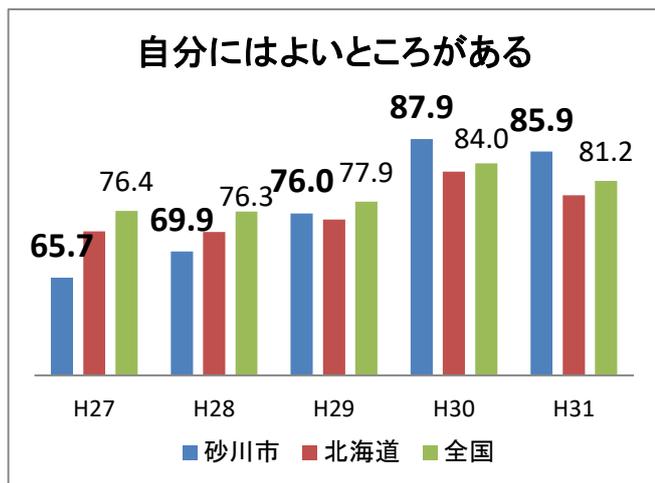
6 授業改善の視点

- 「課題」を明確に示して見通しを持たせるとともに、「振り返る」ことによって学習内容を確認し、わかる喜びとできる自信が心に残る授業の実践。
- 考えを持ち、話し合う場面を計画的に設定し、意見を根拠に基づき説明するなど、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践。
- 基礎・基本の確実な定着のため、効果的に復習するための家庭学習につながっていく授業の実践。
- 学習したことが日常生活や社会の中で活用されることにつながることを感じる授業の実践。

小学校質問紙調査（学校数：5校 児童数：113名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

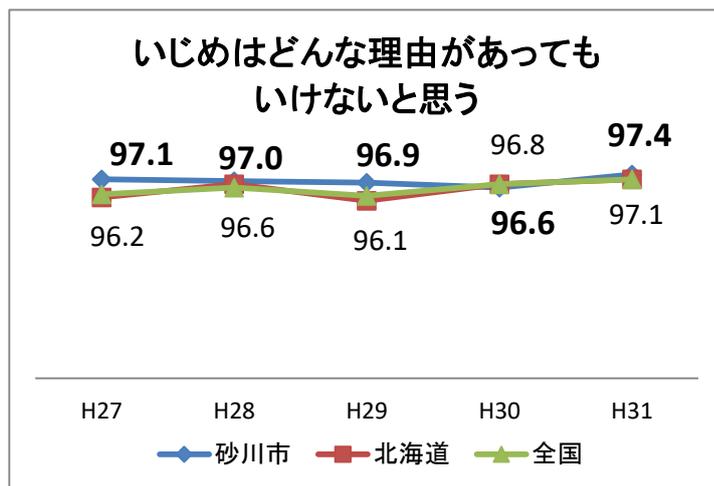
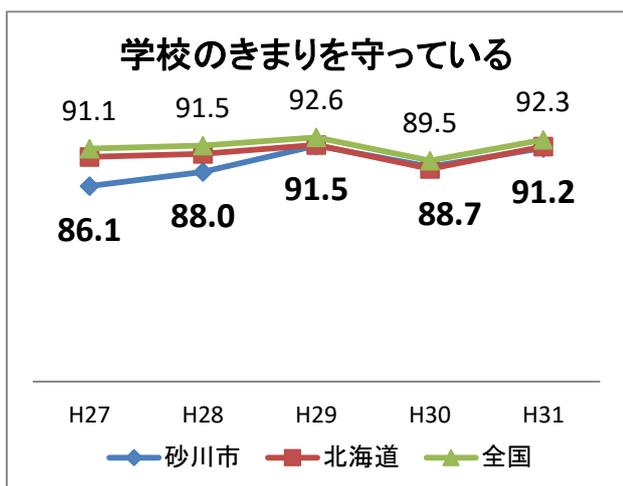
1 自尊感情に関する児童の状況



「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、昨年度より減少したものの、全国平均を上回っている。多くの児童に自己肯定感があり、自分に自信を持った前向きな生活につながっていると考えられる。また、「将来に夢や希望をもっている」と回答した児童も全国平均を上回っている。

一方で、自己肯定感が低い、あるいは将来への夢や希望をもたずにいる児童が、少ないながらもいることから、学習意欲や向上心の低下が懸念される。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり自信を持たせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。

2 規範意識に関する児童の状況

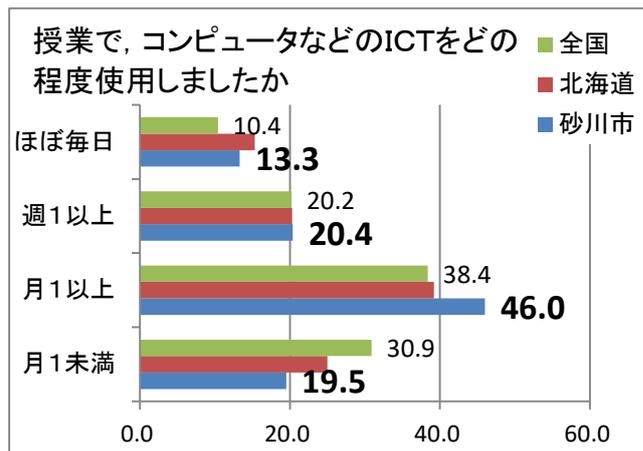
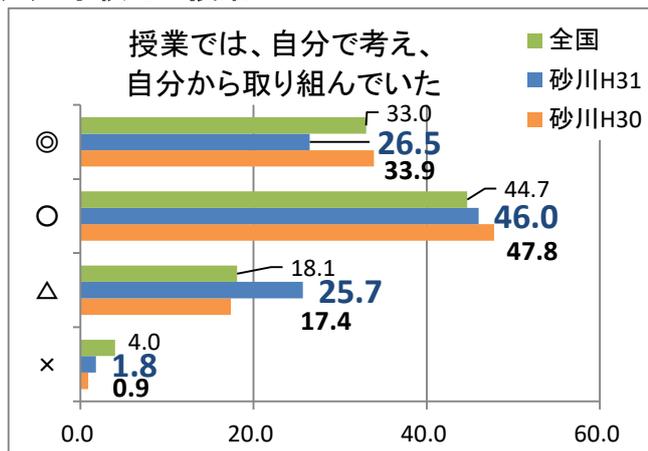


学校のきまりを守っている児童の割合は、全国平均との差は小さいものの全国・全道の平均をやや下回っている状況にあり、家庭・地域と連携して規範意識を高めるための取組を継続していくことが必要である。

また、いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての児童がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるように、様々な場面を通して引き続き指導していくことが必要である。

3 学習に関する児童の状況

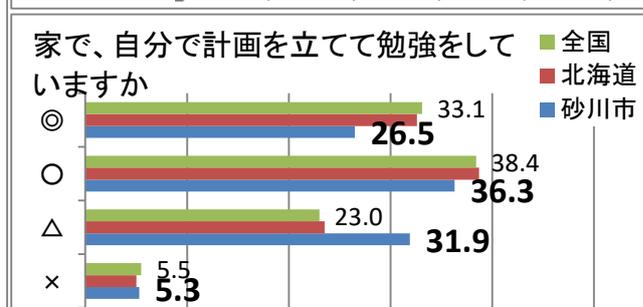
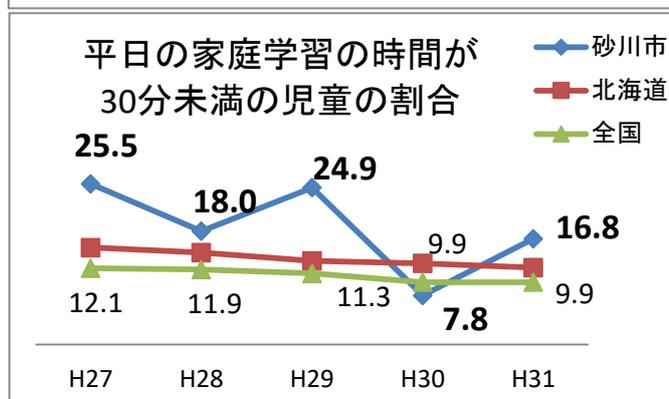
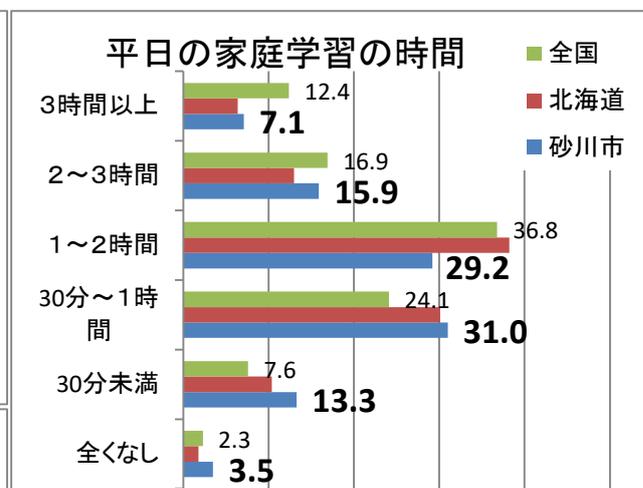
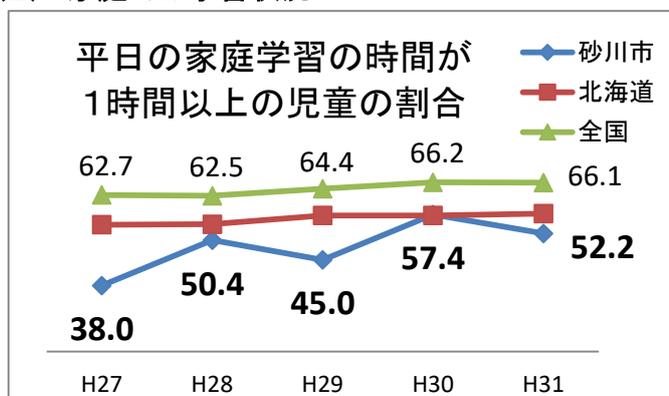
(1) 学校での授業



授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むと回答している児童は約7割であり、多くの児童が主体的に取り組んでいるものの、全国平均よりは下回っている。また、昨年度と比較しても、当てはまる(◎)が大きく減少し、どちらかといえば当てはまらない(△)が大きく増加しおり、結果に影響があったと考えられる。

授業におけるICTの活用については、全国と比較して活用が図られている状況となっており、ICT機器を活用した効果的な授業に向けて改善が進んでいる。

(2) 家庭での学習状況



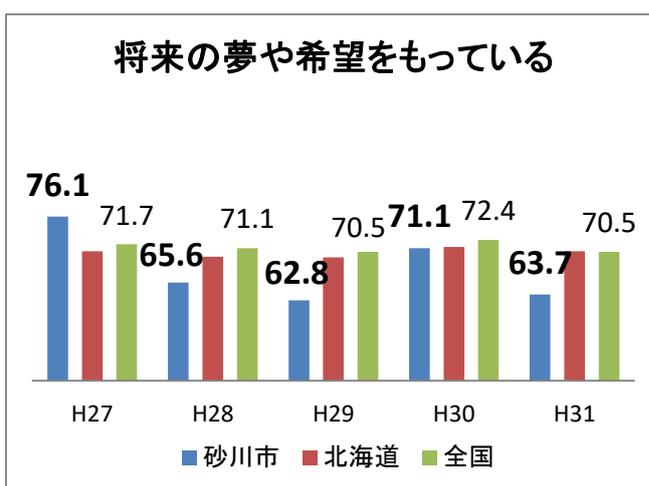
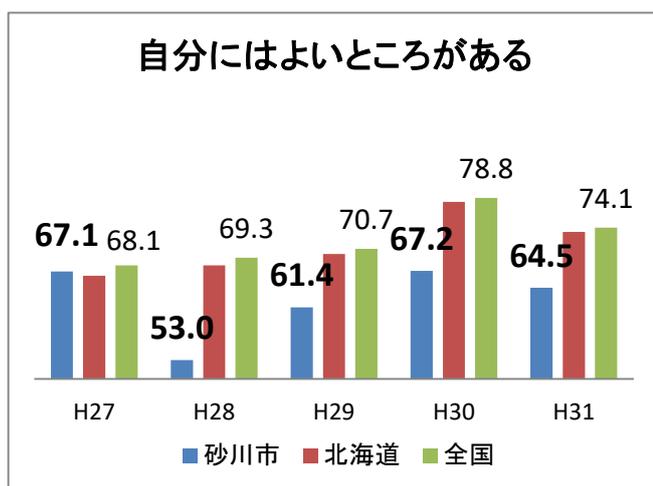
学習時間の質問からは、5割以上の児童が1時間以上学習している一方で、学習時間が30分未満の児童の割合が増加している。30分以上1時間未満の児童が最も多く、家庭学習の時間が不足している状況にある。

家庭学習の計画性については、あまり計画を立てていない(△)児童が多く、家庭学習のやり方に困っている状況がうかがえる。具体的な家庭学習の内容や計画のたて方について、指導をしていく必要がある。

中学校質問紙調査（学校数：2校 生徒数：125名）

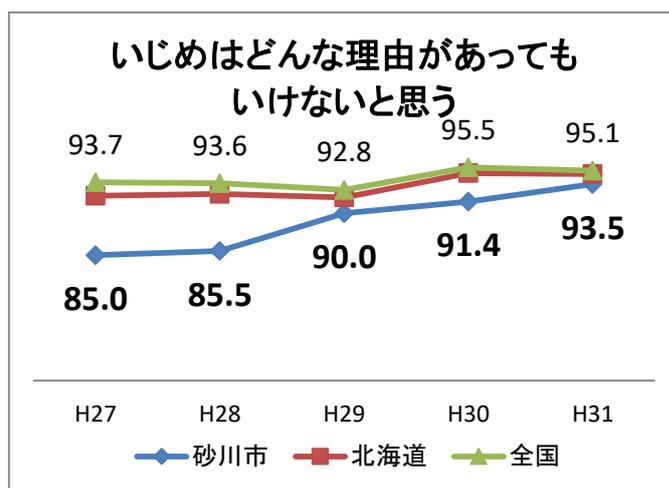
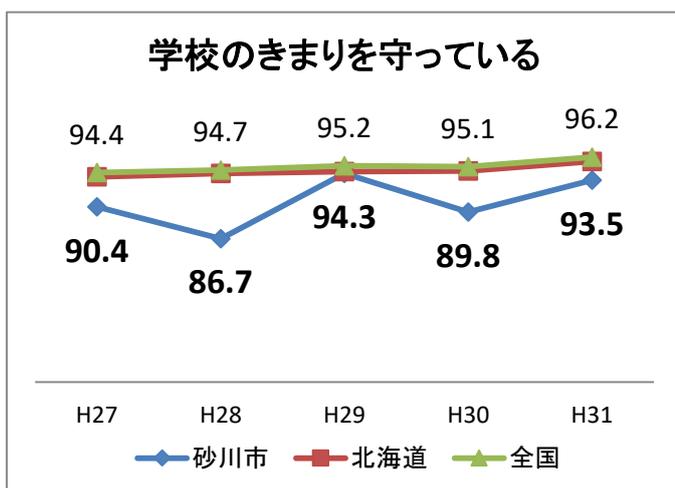
※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

1 自尊感情に関する生徒の状況



「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は全国平均より1割近く下回っている。「将来に夢や希望をもっている」と回答した生徒も全国平均より大きく下回った。一方で、自己肯定感が低い、あるいは将来への夢や希望をもたずにいる生徒が約1/3いるこということであり、学習意欲や向上心への影響が懸念される。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり将来に夢や希望をもたせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。

2 規範意識に関する生徒の状況

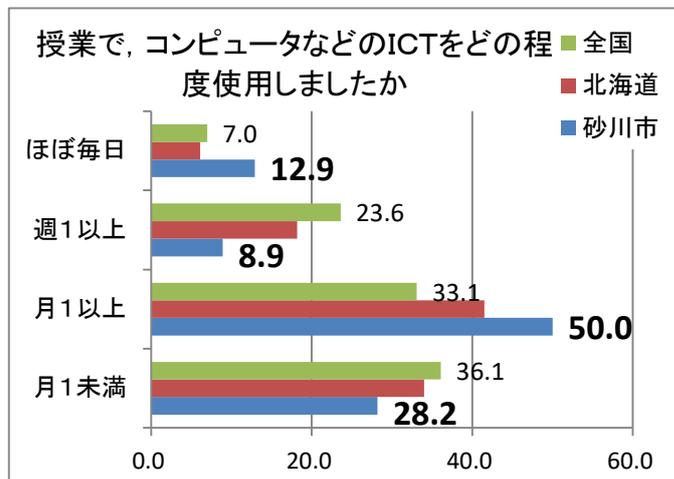
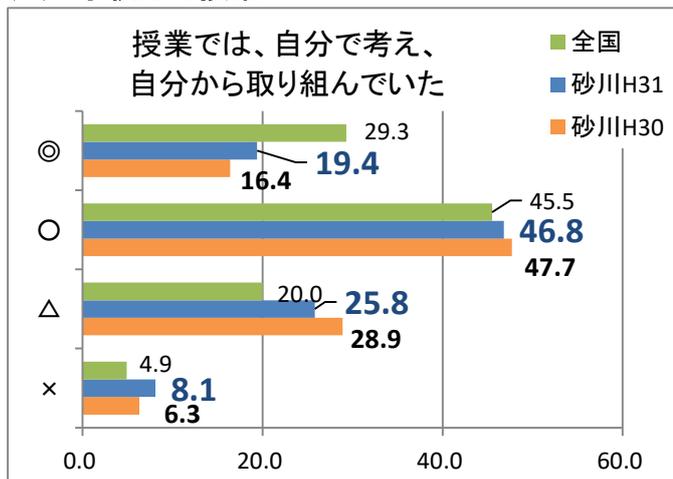


学校のきまりを守っている生徒の割合は、昨年度より改善しているが、全国・全道の平均を下回っている状況にあり、家庭・地域と連携した規範意識を高めるための具体的な取組を継続していく必要がある。

また、いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての生徒がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるように、様々な場面を通して引き続き指導していくことが必要である。

3 学習に関する生徒の状況

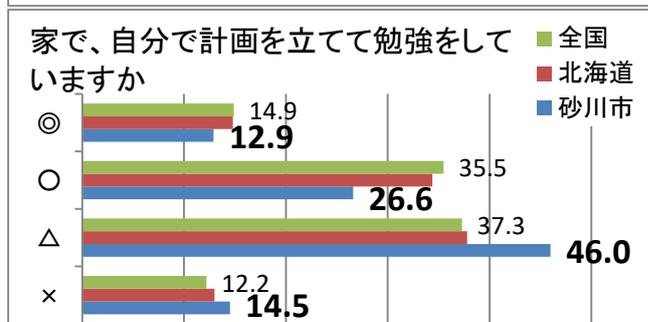
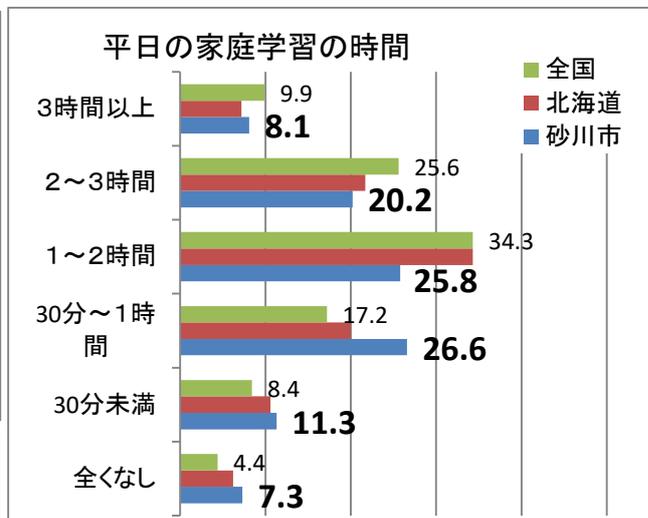
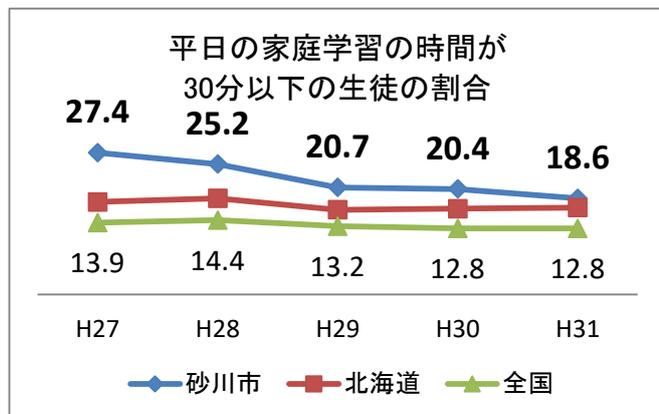
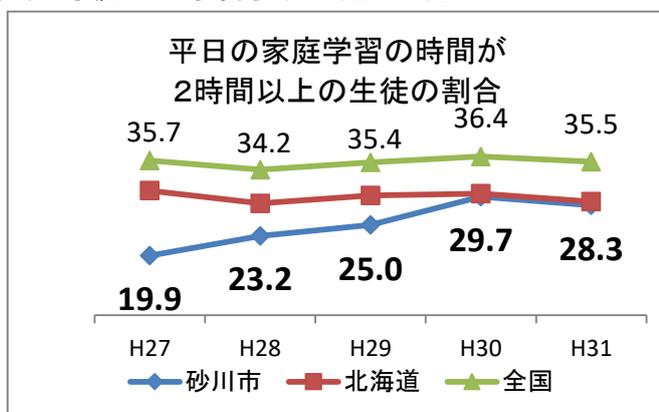
(1) 学校での授業



授業において、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組むと回答している生徒は全国平均より約1割下回っており、主体的に取り組むことができずにいる生徒が約1/3の結果となっている。昨年度と同様の傾向であるが、当てはまらない(×)が増加していることから、今後も、意欲を持って主体的に学ぶことができるよう、既習事項の確実な定着や「わかる・できる」につながる授業の質的改善が求められる。

授業におけるICTの活用については、全国と比較してICT機器を活用した効果的な授業に向けて改善が進んでいる。

(2) 家庭での学習状況や過ごし方



学習時間の質問からは、約3割の生徒が2時間以上学習している一方で、学習時間が30分以下の生徒も約2割いる結果となっている。全体としては改善傾向にあるが、全国平均を下回り、家庭学習が不足している状況にある。

家庭学習の計画性については、あまり計画をたてていない(△)とたてていない(×)を合わせると約6割となっており課題が見られる。計画的で効果的な家庭学習となるように、具体的な家庭学習の内容や計画のたて方について、指導をしていく必要がある。